

# ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年8月3日～2015年8月9日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年8月13日

在ジョージア大使館

## 1. アブハジア・南オセチア

### 【アブハジア】

#### ▼アブハジア鉄道の清掃(7日)

・アブハジア鉄道の運行の再開に向けた作業の一環として、露軍兵士によるオチャムチレ・エングリ間のアブハジア鉄道の清掃作業が実施された。

### 【南オセチア】

#### ▼行政境界線の閉鎖(7日—8日)

・2008年8月の戦争から7年が経過したことを記念する式典の開催のため、7日から8日にかけて行政境界線の通過が禁止された。

#### ▼「国境」標識の再設置(7日)

・ツイテルバニ村付近に「南オセチア共和国国境」と書かれた標識が再び設置された。7月10日に設置された標識は抗議デモの参加者に撤去されていた。

・フルヴァレティ村付近にも新たに標識が設置された。

## 2. 外 政

### ▼ブルジャナゼ元国会議長のウクライナへの入国禁止に関する報道(3日)

・ブルジャナゼ民主運動・統一グルジア党党首(元国会議長)がロシアおよびジョージアのメディアで、「クリミアが今日ロシアの一部であることは事実であり、ウクライナの一部になることは決してないだろう」と述べたことに関連し、3日、ウクライナのメディアが、ウクライナ国家保安庁が「ブ」氏をペルソナ・ノン・グラータに指定したと報じた。しかし、その後、ウクライナ国家保安庁は報道を否定するコメントを発表。

### ▼ロシアがEUの対露制裁に参加する非EU諸国からの輸入の制限を検討(4日)

・メドヴェージェフ露首相が、ウクライナをめぐるEUの対露制裁に加わった非EU諸国からの製品の輸入を制限する手段を検討するよう閣僚に指示。

・5日、アバシゼ対露関係首相特別代表は、「貿易・経済関係の復活は、2012年から始まったジョージア・露間の対話の実質的な成果の一つであり、貿易の制限はロシアによる誤った措置である」とコメント。

・6日、ガリバシヴィリ首相は、「クリミアからの輸入の禁止にに参加するのは、アブハジアと南オセチアの2つの被占領地域を抱えるジョージアにとっては当然である。我々はアブハジアおよび南オセチアについても同じ措置を他国がとるよう望んでいる」「我々はロシアに対する制

裁に参加する意図はない」「私はジョージアの対露制裁への参加に反対であったし、今も反対である」と述べた。

### ▼ロシアが一部のジョージアワインの輸入を差し止め(4日)

・露消費者監視庁は「安全・品質基準を満たしていない」としてジョージア産ワインおよびブランデーの10の積荷の輸入を差し止めたと発表。

・翌5日、ジョージア農業相は、露消費者監視庁の指摘した問題を調査中であるとしつつ、ジョージア産のワインおよびその他のアルコール飲料の品質は厳密に管理されているとの声明を発表。

### ▼ベラルーシ国会代表団のジョージア訪問(6日)

・ベラルーシ国会代表団がジョージアを訪問。メチアウリ国会財政・予算委員会委員長らと両国の経済協力の発展について会談。

### ▼2008年8月の戦争から7年が経過したことに因んだ外務省声明(7日)

・2008年8月の戦争から7年が経過したことに因んで外務省が声明を発表。声明は、今も領土の20%が占領下であり、地域住民の基本的権利が侵害され、数十万人がもと暮らしていた場所へ戻る権利を奪われていると述べている。ジョージアの主権・領土一体性に反する併合政策を継続しているとしてロシアを非難しつつ、ジョージアがジュネーブ国際会議への建設的な関与を続けることを約束。最近の数年間でジョージア政府が数々の重要な措置を実行したことでジョージア・露間の貿易や文化的・人道的交流の再開が実現したとして、この政策を更に継続すると述べている。

### ▼ジョージア国会代表団のイラン訪問(9日)

・サニキゼ国会副議長らがイランを訪問。イランのサルマディ第一外務次官や国会議員らと会談。「サ」副議長は、協力拡大に向けた意欲が双方にあるとして、ジョージアを経由したイランのエネルギー資源の輸送はジョージアにとって戦略的に需要であると述べた。

## 3. 内 政

### ▼TV局「ルスタヴィ2」の資産の凍結(5日)

・2004年から2006年までTV局「ルスタヴィ2」の共同所有者であったハルヴァシ氏が、所有権の返還を求めて提訴。オクルアシヴィリ元内相と関係の深い「ハ」氏は、2004年に同TV局の創業者キツマリシヴィリ氏(2014年夏に死去)ら3名から株式を購入し、所有権を取得。しかし、「オ」元内相が辞任してすぐ後の2006年12月に、所有権は、統一国民運動(UNM)に近いビジネスグルー

ブGIG (Georgian Industrial Group) に渡った。その後も何度か所有者が変わり、現在は企業家ギア・カラマニシヴィリ氏の親族が所有者となっている。

・グヴァラミア・ルスタヴィ2社長は、「ハ」氏の姉妹が与党連合の議員であることを指摘しつつ、「これがハルヴァシ氏のゲームではなく、政府のゲームであることは明白だ」とコメント。UNMなど野党各党は、ルスタヴィ2と自由なメディアを攻撃しているとして政府を批判。

・ガリバシヴィリ首相は「ハ」氏の提訴への政府の関与を否定。

・「ハ」氏の提訴を受け、トビリシ市裁はルスタヴィ2の資産の一部の凍結を決定。決定は、現株主による株主の売却、会社所有の放送機材や車両などの売却・貸与を禁じている。「ハ」氏は同社の銀行口座の凍結も求めているが、トビリシ市裁は認めなかった。

・グヴァラミア「ルスタヴィ2」社長は、決定を不服として上訴する意向を示した。

#### 4. 経 済

##### ▼2015年7月のインフレ率(3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率はマイナス0.2%。食料品・非アルコール飲料の価格が0.8%低下。医療費が0.6%上昇。

・年間インフレ率は4.9%。過去31か月で最高。アルコール飲料・タバコの価格が7.1%上昇。医療費が7.3%、食料品・非アルコール飲料の価格が11.7%上昇。

##### ▼2015年1月～7月の入国者数(3日)

・内務省の発表した資料によれば、2015年1月～7月の入国者数は3,069,999人で前年同期比4.9%増。7月の入国者数は737,696人で同9.5%増。7月中の入国元別では多い順にトルコ(前年同期比12%増)、アゼルバイジャン(同7.9%増)、アルメニア(同11.9%増)、ロシア(同6.6%増)、ウクライナ(同0.6%増)。

##### ▼2015年7月のワイン輸出量(4日)

・国家ワイン局の資料によれば、2015年7月のワイン輸出量は310万本(1本0.75リットル)、輸出額820万ドル。輸出先は多い順にロシア(62.0%)、カザフスタン(8.3%)、ウクライナ(8.1%)、中国(7.2%)、ポーランド(4.1%)。

・2015年1月～7月のワインの輸出量は約1,680万本(前年同期比46.5%減)。うちロシアへの輸出量は850万本(同58.5%減)。2015年1月～7月のワインの輸出額は4,760万ドル(同53%減)。

##### ▼天然ガスパイプラインの爆発(4日)

・トルコ東北部カルス県で起こった原因不明の爆発によりBTE(バクー＝トビリシ＝エルズルム)天然ガスパイプラインが破損。天然ガスの輸送が停止された。

・ヴァリシヴィリ・エネルギー次官は、爆発はジョージア国内の天然ガスの供給にいかなる問題も引き起こさないと述べた。